ふかまちのまど
第十号
九五年 二月一日

子育ては 声かけから

高崎壽郎

以前、落語家の露の新治さんの講演を聴きました。新治さんはその中で、「子育ては己を育てることで、ふれあいの始まりは、まずあいさつから。」といわれました。そして、「子育ても野菜づくりと同じです。その心は、両方ともこえかけが大切。」といわれ、声かけと肥かけをひっかけて、聴く者を笑わされました。

我が子が何か悪いことをしていても、注意しない叱らない親が多くなっているといわれます。まして、他人の子には。

少子化傾向で、我が子を溺愛したり過保護にしたりし、躾の出来ない親が増えているのでしょうか。

私の育った頃は、我が子でも他人の子でも、良い行いは褒めてくれ、いけないことはいけないという態度で、大人は接してくれました。

子どもは、大人の言動をよくみています。子どもが問題のあることをしていても、それを見逃したり注意しないことは、その行為の容認になります。どの子にも、悪いことは悪いといえる大人になり、又、注意されたら素直に耳を傾ける子どもに育てたいものです。

今年の四月からは、月の第二、第四土曜日が、学校週五日制休業日になります。今まで以上に、家庭や地域社会での子どもの自由な時間がふえ、生活体験、自然体験、社会体験が豊かになります。地域での種々なふれあいが、お互いの理解や友情や協調の心を育てます。

「急がば廻れ」といいます。子ども達とのふれあいのはじめに、深町でも 学校・家庭・地域が連携して、声のかけあい運動を推進していったらいかがでしょうか。

まず、朝のあいさつから。

▲▲

遺産

斎藤百三

老人大学教室[illegible]

午後のいっとき[illegible]

で、

「[illegible]結婚式にでも行かれましたんですか、おたのしみ[illegible]で、晴れ着じゃないですか」

「とんでもない、私はもう長生きしても知れてるので、今、私が持ってる着物をどんどん着古してやろうと思っているの、このままタンスに寝かせていると宝の持ち腐れになってしまうのよ。どうせ私が死ぬ前は皆焼いてしまわなきゃ。後の人が始末に困るでしょう」

「誰かに差し上げれば喜ぶでしょうに。」

「今時こんな物、新品でも呉服店で買ってくれる者はいませんわ。」

後日、私は他用で奥さんの宅へ立寄りました。奥さんいわく ――

「先だってあなたは着物の話で、気にくわない顔をしてたわね。」

私は 言ってやりました。

「近頃、蓑や笠でも立派な遺産として資料館に大切に保存されて、沢山の人達を楽しませているんですよ。あんな立派な絹の織物が後で貴重な遺産にならない筈はないでしょう。こういう事は今時、私達の頭では想像のつかないことが後では起こるものですから。」

「着物は蓑や笠とは違うわ。」

その後、私は、私の言った気持ちがわかってもらえないのに少し暗い気持ちで引き退りました。（先人が美しいと感動して求めた物を後の人達が見向きもしないことがあるものか。そんな宝をその持主と心中するなんて勿体ない話だ。）

しかし、その後その奥さんの晴れ着姿は学校では見かけませんでした。

私は淋しいような なんとなく複雑な気持ちになりました。（平生、晴れ着を着たかったら着ればいいのに、奥さんが死ぬ前に焼いてしまうなんて言うもんだから。）

最近なんとなく末世とか末身根性がはびこっているように感じられます。

私は、この思想は危険だと思うのです。それは身の廻りの物を不活性化し、ひいてはその人までも駄目にし不幸にするからです。

では、その末身根性たるものをいかに捨てるか、私は、私なりの[illegible]次回に述べてみたいと[illegible]ます。

▲▲

新役員会内町

上組	会長	幸谷満夫
	副会長	石井峯雄
	副会計	北迫孝三
	会計監査	林 一恵
	会計監査	成末叔正
中組	会長	村上徹郎
	副会長	船本信弘
	副会長	乗兼隆夫
	会計	佐々木茂
	会計監査	村上義穂
	会計監査	広川弘之

＊下組は、四月改選です

おしらせ

旧三原工業高校正門前に、心に病を持ち通院中のみなさんの働き場所ができました。「やっさ工房」です。ちょっとよって見てください。ボランテアも求めています。☎六七－七一〇一

春近し

梶谷良夫

ひなびたる春の七草
粥を炊く真白きうえに
青のすがしさ

裏山の枯木の枝を
鳴らしつつ春一番は
ひねもすを吹く

島山も遠く煙りて
降る雨は春を呼ぶ雨
あたたかき雨

日に乾かせば蒲団の綿も
ふくらみてほのかに
春の匂いするなり

暖かき寒の入りなり
縮景園の紅梅まるく
ふくらむという

☆

二月各種団体行事予定

☆如水館高校
▼深町一周マラソン2/18
☆女性会
▼役員会2/5▼親睦会・上2/25・中2/4・下2/3
☆小学校
▼冬期学園＝藝北スキー場2/9・10▼避難訓練2/14▼参観日・中学入学説明会2/17▼小学校入学説明会2/21▼マラソン大会2/25
☆消防団
▼分団長会議2/22▼九州方面旅行2/25・26▼春の実践訓練2/27

深町 世帯・人口動態

94月	世帯数	人口数
4	294	900
6	295	905
8	299	911
10	301	915
12	304	922

展望席

阪神大震災が発生したのが一月一七日午前六時前。兵庫ならたいしたこともあるまい、とたかをくくっていたが、結果は死者五千余。被災者三十万人。被害推計額は五兆円～八兆円。実に国内総生産の一％との試算も出た。七二年前に起きた関東大震災に次ぐ規模だといわれる▼一年前の一月一七日に起きた米国ロスアンゼルス大地震は我々の記憶に新しいが、そのロス地震でとった米国連邦政府の対応と、今回日本政府の対応が極めて対称的であった。▼米国では二時間半後に連邦緊急管理庁の現地事務所が設けられた。日本では五日後の二二日。緊急時の被災者救済は時間との戦いである。▼危機管理システムの発想は米国だが、今では日本でも多くとり入れられ成果をあげている。一言で言えば、日頃から最悪の事態に備え準備しておくことである。あった！日本にも、備えあれば憂いなし・呵呵